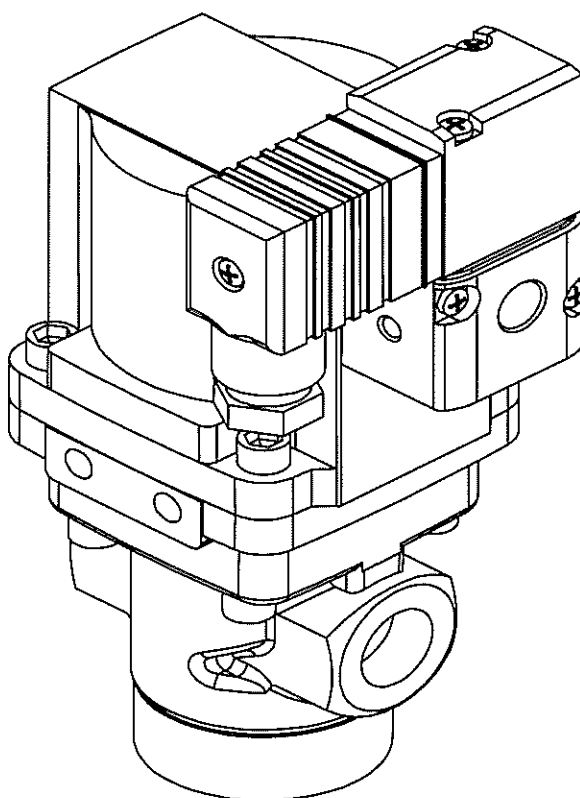


CKD

取扱説明書

クーラントバルブ

CVE3/CVSE3 シリーズ



- 製品をお使いになる前に、
この取扱説明書を必ずお読みください。
- 特に安全に関する記述は、注意深くお読みください。
- この取扱説明書は必要な時にすぐに取り出して
読めるように大切に保管してください。

CKD株式会社

はじめに

このたびは、CKDのクーラントバルブ『CVE3, CVSE3形』をご採用いただきまして、ありがとうございます。

1. 使用目的

一般産業機械・設備に使用する外部パイロット式3ポート切換え弁です。

2. 使用用途

クーラント液の供給・停止の切換えを目的とした、外部パイロット式3ポート弁です。

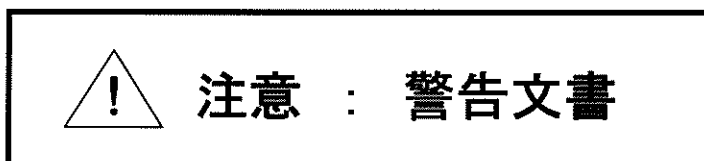
3. 全般的な注意事項

- この取扱説明書は、開梱・施工・使用・保守にいたる製品の取扱いに関する基本事項が記述されています。
- この取扱説明書の施工に関する内容は、機械および電気の専門技術者を対象にして記述されています。
設計・施工前に良く読み、機械・設備の安全の確保および本製品の適切な取扱いに配慮してください。

4. 安全上の注意

- 人身事故及び火災などの財産上の拡大被害を回避するために、適所に警告文が記載してあります。絶対に遵守してください。
- 警告表示は、リスク査定により『危険』・『警告』・『注意』とすべきであります。本製品は機械・設備に使用する構成部品であるため、全て『注意』で記述してあります。

表示例



【 目次 】

1. 開梱	3
2. 施工	3～7
2. 1 据付け条件	3
2. 2 配管工事	4～5
2. 3 配線工事	5～7
3. 使用前の確認（施工後の確認）	8
3. 1 外観の確認	8
3. 2 漏れの確認	8
3. 3 電気の確認	8
4. 適切な使用方法	9
5. 分解・組立	10～12
5. 1 パイロット電磁弁の取り換え	10
5. 2 パッキンの取り換え	11～12
6. 保守	13
6. 1 保守・点検	13
6. 2 保守部品	13
7. トラブル対応	13
8. 内部構造図	14～16
8. 1 3.5MPa(10A～25A)用の内部構造図	14
8. 2 3.5MPa(32A～50A)用の内部構造図	15
8. 3 7.0MPa 用の内部構造図	16
9. 作動説明	17
9. 1 作動	17
9. 2 復帰	17
10. 製品の仕様	18～19
10. 1 形番表示	18
10. 2 製品の仕様	19

1. 開梱

- ご注文の製品形番と製品銘板の形番が同一であることを、確認してください。
- 定格電圧・定格周波数が合致していることを、確認してください。
- 外観に損傷を受けていないことを、確認してください。
- 保管時は、弁の内部に異物が入らないように、シール栓を付けて保管してください。
そして、配管時にシール栓を除去してください。

2. 施工

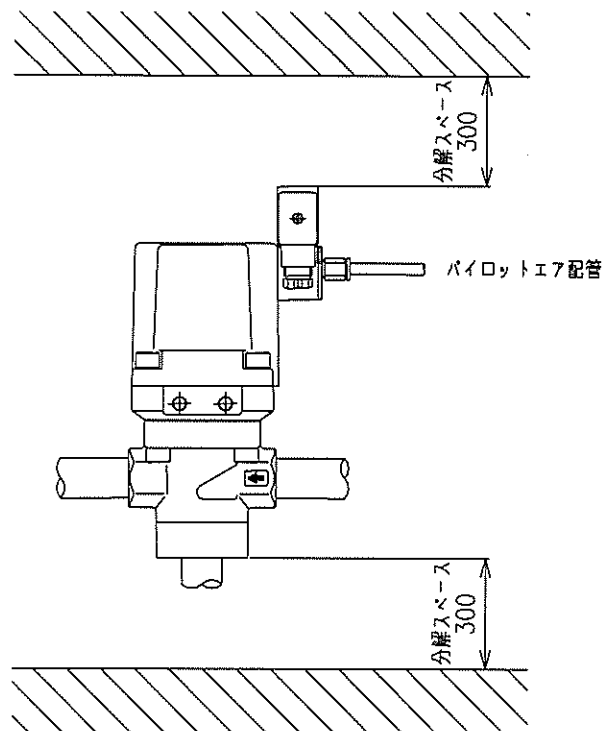
2.1 据付け条件

2.1.1 据付け姿勢

- 据付け姿勢は、自由です。
- 金属配管以外の場合は、製品の取付ねじを利用して固定してください。
- 振動のない場所に取付けてご使用ください。

2.1.2 保守スペース

- 保守およびトラブルシュート時の安全作業を考慮して、十分なスペースを確保してください。



(図2-1)

2.1.3 製品の保護

- 寒冷地使用の場合、適切な凍結対策を実施してください。
- 水滴やクーラント液が直接バルブにかからないようカバーやパネル内に設置するなど保護してください。
- このバルブは、屋外では使用できません。カバーやパネル内に設置するなど保護してください。

2. 2 配管工事

● 配管材の清掃

配管材には異物・切り粉・バリの付着がないことを確認してから配管してください。

清掃方法は、0.3MPa以上の空気圧を吹き付けて、配管内の異物・切り粉・バリを除去してください。

● 異物の除去

流体中のゴミ・異物などは、作動不良や弁座漏れの原因となります。

バルブの直前には、80～100メッシュ程度のストレーナを取り付けてください。

また、パイロットエア回路には、5μm以下のフィルタを設置してください。

● 流体の流れ方向

流体の流れ方向と、ボディの矢印マークの向きを合せて配管してください。

パイロット供給ポートは、表2-1のように配管してください。

パイロットポートの反対の呼吸穴側にある排気キャップは誤配管防止のためのゴム栓です。取らずにご使用できます。

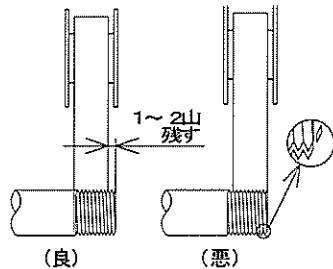
表2-1 パイロットエア供給ポート

形番	パイロットエア供給ポート
CVE3形	Y
CVSE3形	P

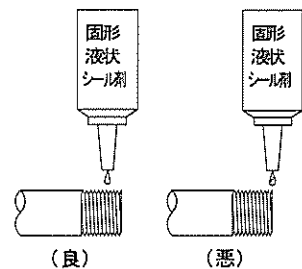
● シール剤

シール剤の使用については、配管内に入り込まないよう充分注意するとともに、外部漏れのないようにしてください。ねじ部にシールテープを巻く時は、ねじの先端を1～2山残して巻き付けてください。（図2-2）液状シール剤を使用する時も、ねじの先端を1～2山残して多すぎないように塗布してください。機器のめねじ側へは、塗布しないでください。

● シールテープ



● 固形・液状シール剤



（図2-2）

● 配管時の締め付けトルクは、表2-2、表2-3を参考にしてください。

表2-2パイロットポート配管締め付けトルクの推奨値

配管の呼び径	配管締め付けトルクの推奨値
Rc 1/8	7～9 [N・m]

表2-3メインポート配管締め付けトルクの推奨値

配管の呼び径	配管締め付けトルクの推奨値
Rc 3/8	31～33 [N・m]
Rc 1/2	41～43 [N・m]
Rc 3/4	62～65 [N・m]
Rc 1	83～86 [N・m]
Rc 1 1/4	97～100 [N・m]
Rc 1 1/2	104～108 [N・m]
Rc 2	132～136 [N・m]

配管は必ず、ボディをスパナなどで固定しねじ込んでください。

CVSE3形の場合は、パイロット電磁弁部を利用して配管しないでください。破損する恐れがあります。

- 塵埃

周囲に塵埃などが多い場合は、作動不良や漏れの原因となります。呼吸穴側にサイレンサまたはフィルタを取り付けてください。

- 給油・無給油

このバルブのパイロットエアは、無給油が可能です。

ルブリケータは不要ですが、給油される場合は、タービン油 1 種・ISO VG32 (無添加) をご使用ください。

また、給油を途中で中止された場合、初期潤滑剤の消失によって作動不良を招く場合がありますので給油は、必ず続けて行うようにしてください。

- ドレン対策

アフタクーラ・ドライヤによる除湿、フィルタによる異物除去、タール除去フィルタによるタール除去などによりパイロットエア質の改良をおこなってください。

2.3 配線工事 (CVSE3形のみ適用)

- 漏洩電流の制限

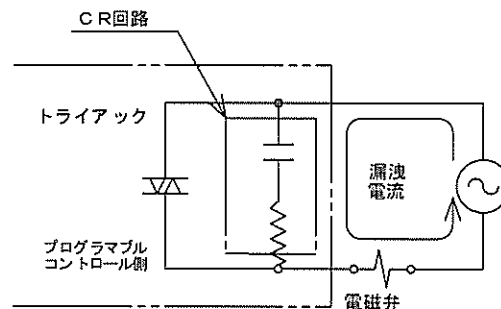
プログラマブルコントローラなどで電磁弁を作動させる場合には、プログラマブルコントローラの出力の漏洩電流が下記の仕様に入っていることを確認してください。

誤作動の原因となります。(図 2-3)

定格電圧 AC 100V の場合、漏洩電流 3.0mA 以下

定格電圧 AC 200V の場合、漏洩電流 1.5mA 以下

定格電圧 DC 24V の場合、漏洩電流 1.0mA 以下



(図 2-3)

- ソレノイドの極性

このバルブは、定格電圧が DC 電圧でありましても、(+) (-) の極性はありません。

また、ランプ・サージキラーが付きましても、極性はありません。

- 連続通電

制御盤の中に取り付けたり、通電時間が長い場合には、ソレノイドが 40～60℃ の高温状態になりますので、通風などの放熱をしてください。

- 電気結線方向

コイルの向きは、180° 変更できます。

電気結線方向を逆にしたい場合は、コイルのみ回転させてください。

- 電気回路のサージ

電気回路系がソレノイドのサージを嫌う場合は、サージキラー付き（オプション）をご使用いただくか、サージアブソーバなどをソレノイドに並列に入れてください。

- 電気設備の保全

電気設備の保全のために、制御回路側にはヒューズなどの、遮断器をご使用ください。

2.3.1 DIN端子箱の結線方法

この項は、コイルオプション記号『2G』、『2H』のDIN端子箱付きの製品に適用します。

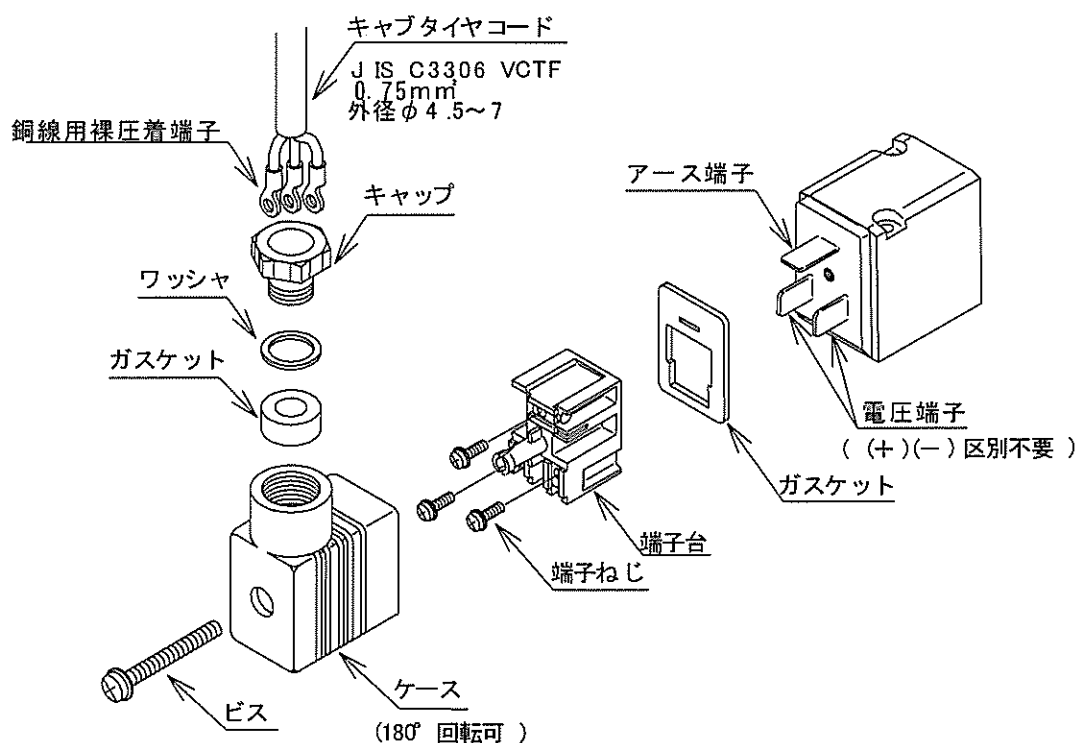
- キャブタイヤコードは、公称断面積0.75mm²以上をご使用ください。
また、コードの外径はφ4.5～φ7のものをご使用ください。
- キャブタイヤコードに、キャップ、ワッシャ、ガスケットおよびケースを通してください。
- キャブタイヤコードのリード線に、銅線用圧着端子を挿入して、端子カシメをしてください。
- 端子台に、圧着端子を固定し、端子ねじを締め付けトルク0.5N・mで締め付けてください。



注意：● 端子台への結線を間違えないでください。

- 端子台の表示記号①② …導線接続用
- 端子台のアース記号 …アース端子用

- 端子台に、ケースをかぶせてください。
- キャップを締め付けて、キャブタイヤコードが抜けないう固定してください。
- コイルのアース端子と端子台のアース端子を合せて、コイルへDIN端子箱を差し込んでください。
- ビスを締め付けトルク0.5N・mで締め付けてください。
- コード取出し向きを変更したい場合は、端子箱をケースから出し180°回転してケースに押し込んでください。

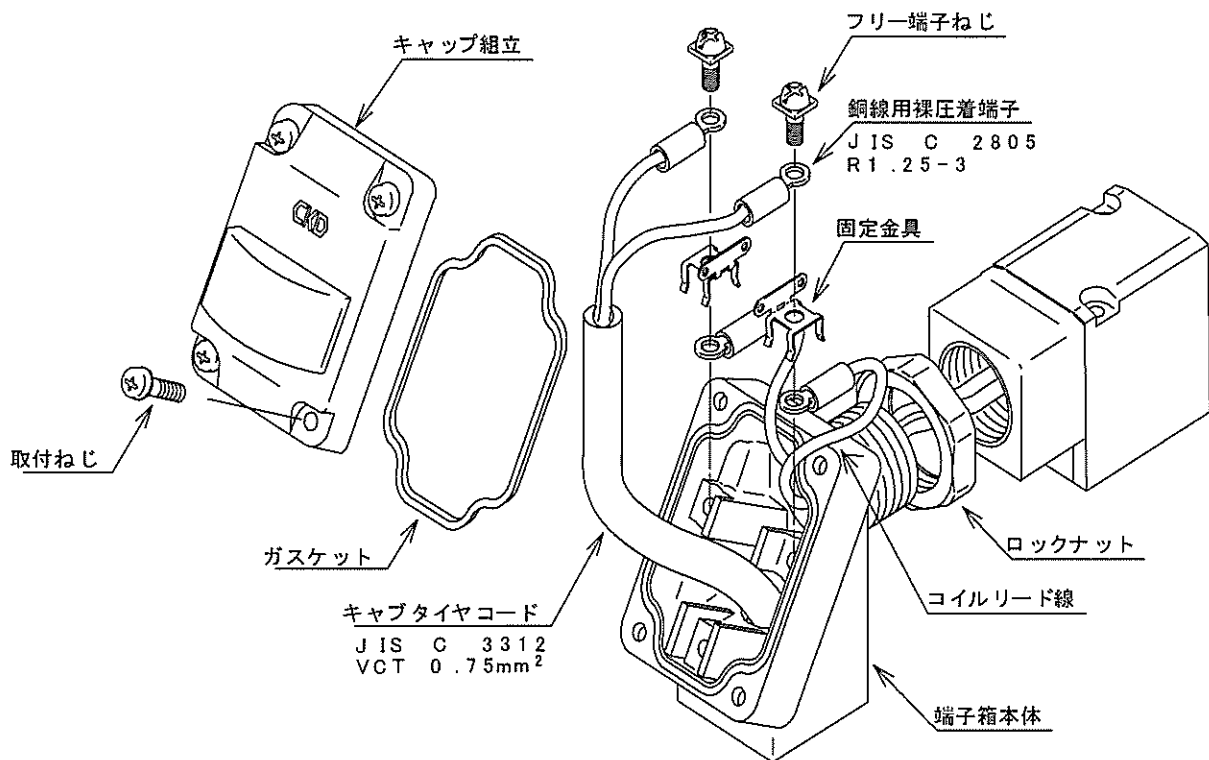


(図2-4) DIN端子箱の結線方法

2.3.2T型端子箱の結線方法

この項は、コイルオプション記号『3T』、『3R』のT型端子箱付きの製品に適用します。

- キャブタイヤコードは、公称断面積0.75～1.5mm²のものをご使用ください。
- キャブタイヤコードを、端子箱本体に通してください。
- キャブタイヤコードのリード線に、銅線用圧着端子を挿入して、端子カシメをしてください。
- フリー端子ねじを締め付けトルク0.5N・mで締め付けて、コイルリード線、固定金具、圧着端子の順で固定してください。
- ガasketおよび、キャップ組立をかぶせて取付ねじを締め付けトルク0.5N・mで締め付けてください。



(図2-5) T型端子箱の結線方法

T型端子箱の向きの変更

出荷時のT型端子箱の向きを変更される場合は、下記の手順に従ってください。

- ① T型端子箱の二面幅(25幅)を工具(モンキーレンチ、スパナ等)ではさみ、反時計方向に回してゆるめる。
- ② ロックナットをゆるめる。
- ③ T型端子箱を希望する位置の約15°手前まで、締め付ける方向(時計方向)に回転させる。
- ④ ロックナットを手で軽く締まるまで、コイル側に締め付ける。
- ⑤ T型端子箱の二面幅を工具ではさみ、希望する位置まで回転させて(約15°)締め付ける。

注：出荷時の位置から端子箱をさらに締め付けて向きを変更する場合は、1/2回転以内にしてください。

3. 使用前の確認(施工後の確認)

3.1 外観の確認



注意：

- 流体の流れを止めてください。(元栓を閉じる)
- バルブ内の流体を排気してください。
- 電源を切ってください。

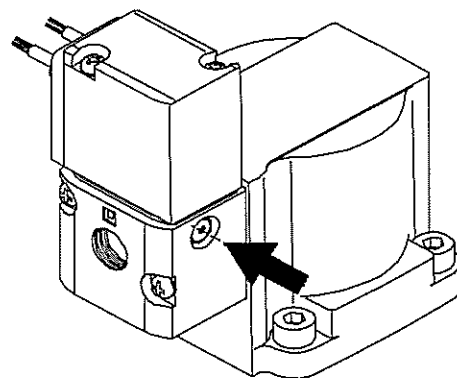
- バルブが配管に確実に固定されていることを、手で押して確認してください。
- 六角穴付きボルトなどのねじ部品がゆるんでいないことを、確認してください。

3.2 漏れの確認

- 流体を加圧状態にして、接続部の漏れを確認してください。
漏れの確認は、圧縮空気 (0.3~0.5MPa) を供給して、石鹼液を塗布し、気泡発生の有無で確認することをおすすめします。

(CVSE3形の時)

- 手動操作 (ノンロック式手動装置)
 - ①パイロットポートへ圧縮空気 (0.25~0.5MPa) を供給してください。
 - ②手動操作は、手動軸が突き当たるまで押してください。
手動軸を押している間、バルブは通電時と同じ状態になり、離すと弁は復帰します。(図3-1)



押している間作動します。
(図3-1)

3.3 電気の確認



注意：

- 電源を切ってください。

- 絶縁抵抗の確認
電磁弁のねじ部品などの金属部とリード線などの充電部間の絶縁抵抗を測定してください。
DC1000Vメガーにて、100MΩ以上。
- 電源電圧を確認してください。
電圧変動は、定格電圧の±10%の範囲内でご使用ください。
許容電圧範囲外でのご使用は作動不良やコイル損傷の原因となります。
- バルブへの通電時間が短い場合はバルブの作動が追従できないことがあります。
『4. 適切な使用方法』の作動頻度を確認してください。
- CVSE3形で電源電圧を変更する場合
AC電圧からDC電圧の変更、又DC電圧からAC電圧への変更はコイルのみの変更で行えます。

4. 適切な使用方法



- 注意：**
- 連続通電で使用的場合、コイル部は40～60℃の高温状態になります。
通電中は、直接手や体を触れないようにしてください。
 - 通電時、電気配線部（裸充電部）に手や体を触れないでください。
感電の恐れがあります
 - 電線ケーブルが作業者の足下を引っかけるような恐れがある場合、
事故につながります。
電線管配管などで、電線ケーブルを保護してください。
 - 緊急遮断弁などには使用できません。
 - 使用圧力範囲内でご使用ください。

- バルブを足場にしたり、重量物を載せたりしないでください。
- 電圧変動は、定格電圧の±10%の範囲を守ってください。
- 流体の使用圧力、使用温度範囲・使用周囲温度範囲を守ってください。
- CVSE3シリーズでパイロット電磁弁からの排気音を消音したい場合は、パイロット電磁弁の排気ポートにサイレンサ（配管径M5）を取り付けてください。
- 作動頻度を守ってください。最大作動頻度は、表4-1を参照してください。

表4-1 最大作動頻度

口径	最大作動頻度（回/min）	
	3.5MPa 用	7 MPa 用
10A	10	10
15A	10	10
20A	10	6
25A	6	6
32A	6	
40A	6	
50A	4	

- 電磁弁への通電時間が短い場合は、電磁弁の作動が追従できないことがあります。
- なお、3日以上未使用の場合は、初回の作動時間が1秒程度長くなることがあります。始業前に試運転をしてください。
- クーラント液の種類によってはシール材などが腐食し、材質的に使用できない物があります。
塩素系のクーラント液の場合は、FKM シールを使用してください。
不明な点は、当社または、代理店へ相談してください。
- 異常に気付いたら、『7. トラブル対応』を参照ください。

5. 分解・組立

5.1 パイロット電磁弁の取り換え（CVSE3形のみ適用）

5.1.1 分解手順

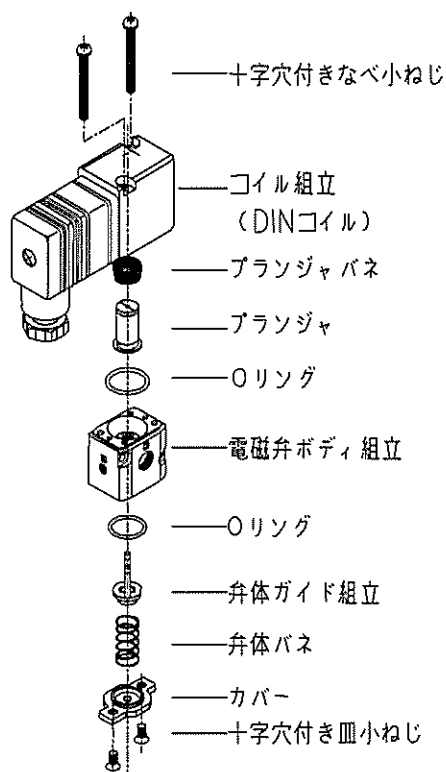


注意：● 元栓を閉じて流体を止めてください。

● バルブ内の流体を排気してください。

● 電源を切ってください。

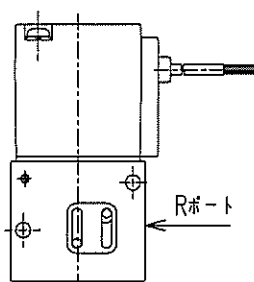
- 結線をはずしてください。
- 十字穴付きなべ小ねじを、2本ゆるめてください。
- パイロット電磁弁を取り外してください。



（図5－1）パイロット用電磁弁の分解図

5.1.2 組立手順

- パイロット電磁弁のガスケットには方向性があります。向きを確認してください。（図5－2）
- 十字穴付きなべ小ねじを、2本、締め付けトルク 0.6～0.8 N・mで締め付けてください。
- 電気の結線をしてください。
- 電源を入れ、流体回路を使用状態にしてください。



（図5－2）電磁弁ガスケット取付方向

5.2 パッキンの取り換え

5.2.1 分解手順



注意：● 元栓を閉じて流体を止めてください。

● バルブ内の流体を排気してください。

● 電源を切ってください。

- 分解作業は、8 頁の『内部構造図』を参照して作業を行ってください。
- パイロットエアの配管を取りはずしてください。
- シリンダカバーの六角穴付きボルトを 4 本ゆるめてください。
- シリンダカバーを上へ持ち上げてはってください。
- NO ボディの六角穴付きボルトを 4 本ゆるめて NO ボディをはずしてください。



注意：ピストンの下側にはスプリングが内蔵されています。

分解する時は反力に注意してください。

- (接続口径：10A～25A の時)
バルブシステムの貫通穴を利用し、ボディのポートからドライバー等を差し込み、回り止めをしてロックナットをゆるめてピストンをはずしてください。
(接続口径：32A～50A の時)
バルブシステムの二面幅を利用し、ボディのポートかボディ下面からバルブシステムを固定し、回り止めをしてロックナットをゆるめてピストンを外してください
- バルブシステムを下へ押し出してはってください。
- (3.5MPa 10A～25A 用の時)
そのままアダプタを取りはずしてください。
(3.5MPa 32A～50A、7MPa 用の時)
ボディの六角穴付きボルト 4 本をゆるめてヨークをはずし、アダプタを取りはずしてください。

5.2.2 組立手順

- 組立作業は、『8. 内部構造図』を参照して作業を行ってください。
- パッキンやOリングには、グリースを塗布してください。

※当社推奨グリース：シリコングリース

- パッキンが摺動する面にもグリースを塗布してください。
- パッキンの向きを間違えないようアダプタに装着してください。
- アダプタをボディに固定してください。

7MPa 用の時は、ヨークを上に乗せボディに、六角穴付きボルトを表5-1を参考にして4本を均一に締め付けてください。

表5-1 六角穴付きボルト締め付けトルクの推奨値

ねじのサイズ	推奨締め付けトルク
M 5	6. 8 ~ 8. 2 [N・m]
M 6	7. 2 ~ 8. 8 [N・m]
M 8	1 6. 2 ~ 1 9. 8 [N・m]
M 1 0	2 7. 0 ~ 3 3. 0 [N・m]
M 1 2	4 3. 0 ~ 6 4. 5 [N・m]

- バルブシステムをボディの下側から通し、ロックナットを表5-2を参考にして締め付けてください。

表5-2 ロックナット締め付けトルクの推奨値

ねじのサイズ	推奨締め付けトルク
M 5	3. 6 ~ 4. 4 [N・m]
M 6	5. 4 ~ 6. 6 [N・m]
M 8	1 3. 5 ~ 1 6. 5 [N・m]
M 1 0	2 7. 9 ~ 3 4. 1 [N・m]
M 2 0	1 6 0 ~ 2 0 0 [N・m]
M 2 4	2 3 0 ~ 2 9 0 [N・m]

- シリンダカバーをはめて、六角穴付きボルトを表5-1を参考にして、4本を均一に締め付けてください。
- パイロットエア配管を接続してください。
- 流体圧力を加え、流体が外部へ漏れていないことを確認してください。
- 電源を入れ、流体回路を使用状態にしてください。

6.保守

6.1 保守・点検

- 本製品を最適状態でご使用いただくために、定期点検を通常、半年に1回おこなってください。
- 点検内容は『3. 使用前の確認』を参照ください。

6.2 保守部品

- パイロット電磁弁
電氣的故障および異常が認められた時に、交換してください。
作動回数500万回を目安としてください。
- パッキン、Oリング
使用中に、漏れまたは弁部の固着現象・遅れなどの異常が認められた時に、交換してください。
10A～25Aは作動回数100万回、32A～50Aは作動回数50万回を目安としてください。

7.トラブル対応

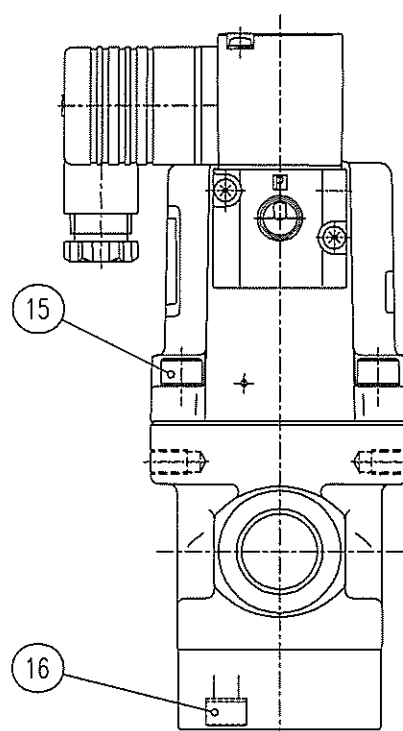
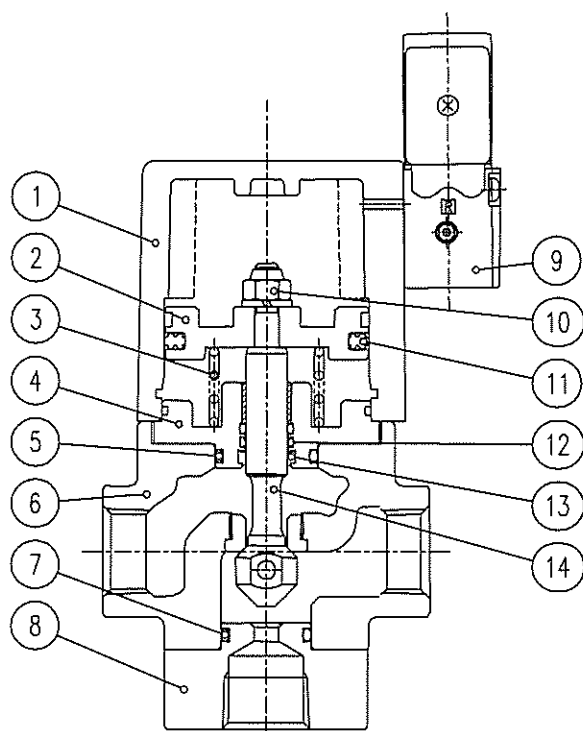
- バルブが目的通りに作動しない場合は、下表に従い点検をおこなってください。

故障の状態	原因	処置
弁が作動しない。	電気が通電されていない。	配線・ヒューズなどを確認し、電源を入れてください。
	定格電圧以下。	電源を確認して、定格電圧を入力してください。
	流体圧力が高い。	流体圧力の調整。
	パイロットエア圧力が低い。	パイロットエア圧力の調整。
	パイロット電磁弁が作動しない。	パイロット電磁弁の交換。
	バルブシステムに異物の噛み込み。	バルブ内を分解・清掃。
弁が復帰しない。	流体圧力が高い。	流体圧力の調整。
	電気が切れていない。	漏洩電流などを確認し、電源を確実に切る回路に修正してください。
	パイロット電磁弁が復帰していない。	パイロット電磁弁の交換。
	バルブシステムに異物の噛み込み。	バルブ内を分解・清掃。
	パッキンのグリース切れ。	バルブ内を分解・清掃。グリース塗布。
外部への漏れ。	パッキン・Oリングの摩耗・キズ。	バルブ内を分解して、パッキン・Oリングを交換してください。
	ビス・ボルトのゆるみ。	ビス・ボルトを締め付ける。
内部の漏れ。	ボディの弁座の摩耗・キズ。	製品の交換。
	バルブシステムシール面の摩耗・キズ。	バルブシステムの交換。
	バルブシステムに異物の噛み込み。	バルブ内を分解・清掃。

- その他、不明な点は、当社または代理店へご相談ください。

8.内部構造図

8.1 3.5MPa(10A~25A)用内部構造図

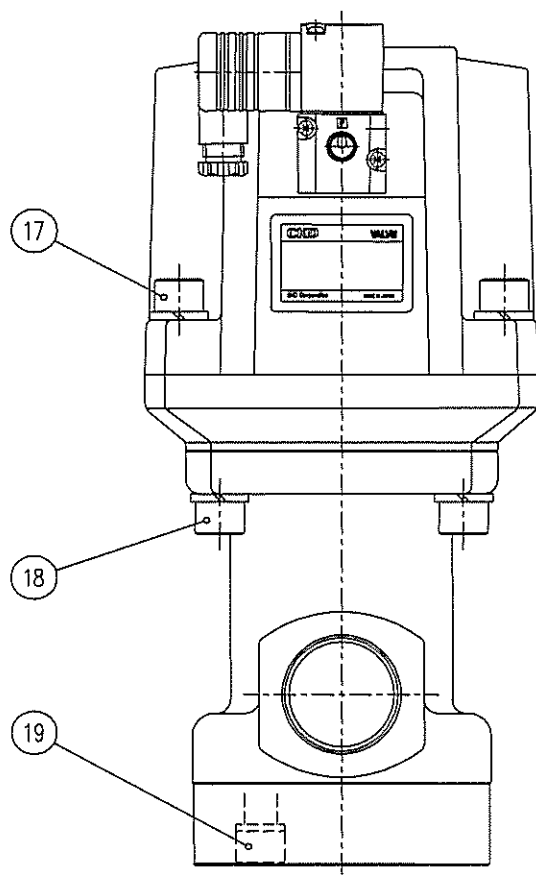
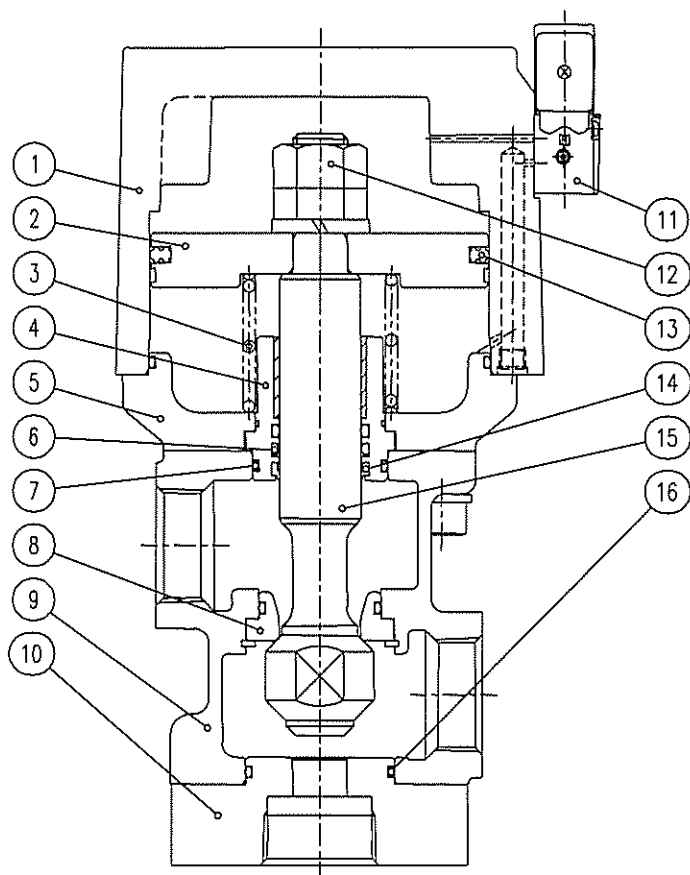


No.	部品名	数量
1	シリンダカバー	1
2	ピストン	1
3	スプリング	1
4	アダプタ	1
5	Oリング	1
6	ボディ組立	1
7	Oリング	1
8	NOボディ	1
9	パイロット電磁弁	1
10	ロックナット	1
11	PSDパッキン	1
12	ロッドパッキン	1
13	スクレーパ	1
14	バルブステム	1
15	六角穴付きボルト	4
16	六角穴付きボルト	4

※1 図は、CVSE3形を示します。

※2 CVE3形の場合は、⑨パイロット電磁弁はありません。

8.2 3.5MPa(32A~50A)用内部構造図

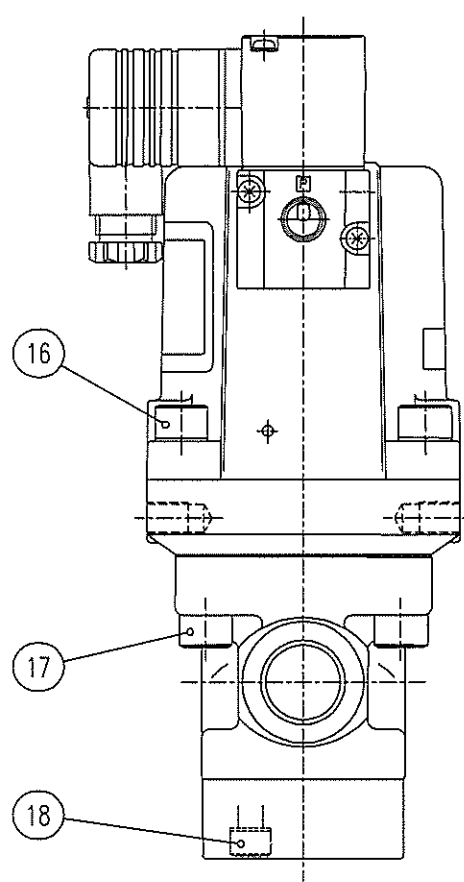
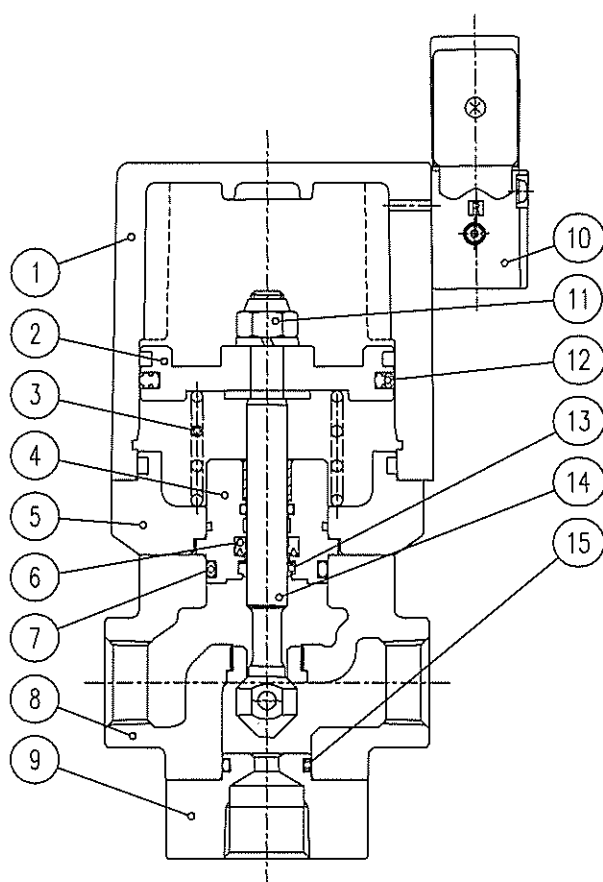


No.	部品名	数量
1	シリンダカバー	1
2	ピストン	1
3	スプリング	1
4	アダプタ	1
5	ヨーク	1
6	ロッドパッキン	1
7	Oリング	1
8	NC弁座	1
9	ボディ	1
10	NOボディ	1
11	パイロット電磁弁	1
12	ロックナット	1
13	PSDパッキン	1
14	スクレーパ	1
15	バルブステム	1
16	Oリング	1
17	六角穴付きボルト	4
18	六角穴付きボルト	4
19	六角穴付きボルト	4

※1 図は、CVSE3形を示します。

※2 CVE3形の場合は、⑪パイロット電磁弁はありません。

8.3 7 MPa 用内部構造図



No.	部品名	数量
1	シリンダカバー	1
2	ピストン	1
3	スプリング	1
4	アダプタ	1
5	ヨーク	1
6	ロッドパッキン	1
7	Oリング	1
8	ボディ組立	1
9	NOボディ	1
10	パイロット電磁弁	1
11	ロックナット	1
12	PSDパッキン	1
13	スクレーパ	1
14	バルブステム	1
15	Oリング	1
16	六角穴付きボルト	4
17	六角穴付きボルト	4
18	六角穴付きボルト	4

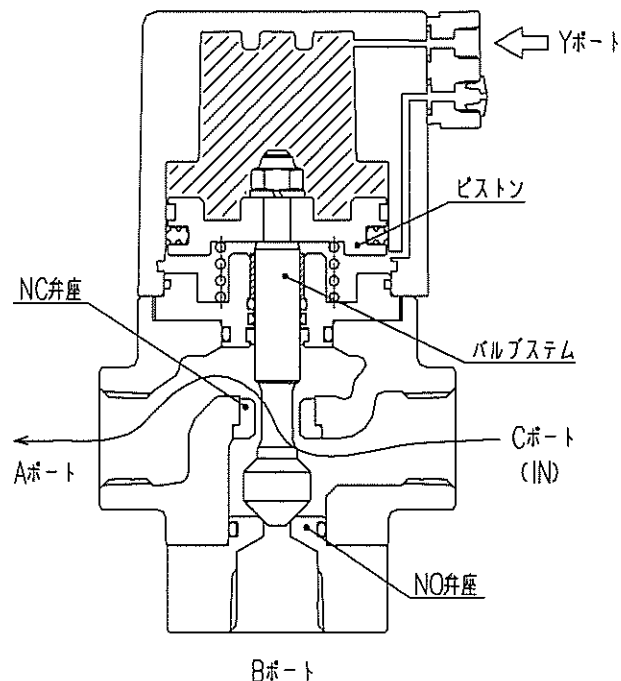
※1 図は、CVSE3形を示します。

※2 CVE3形の時は、⑩パイロット電磁弁はありません。

9. 作動説明

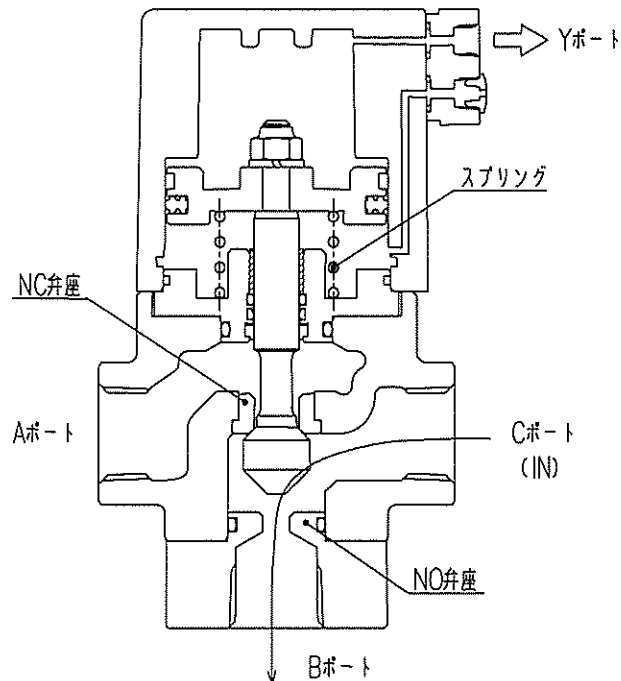
9.1 作動

- パイロットエアを Y ポート (P ポート) より供給します。
- パイロットエアはピストン上部室へ供給されます。
- ピストンは下方へ下がりピストンに連結されたバルブシステムも同時に下降し、ボディの NO 弁座を閉じて NC 弁座が開きます。
- メイン側流体は、C → A ポートへ流れます。



9.2 復帰

- ピストンの上部室にあったパイロットエアを Y ポート (R ポート) より大気へ排気します。
- スプリングの反力によりピストンが押し上げられピストンに連結されたバルブシステムも上方へ上がりボディの NO 弁座を開いて NC 弁座を閉じます。
- メイン側流体は、C → B ポートへ流れます。



※上記の作動説明はエアオペレート形の
C V E 3 シリーズを示します。

10.製品の仕様

10.1 形番表示

CVE3 — 15A—35—0 B
 ① ② ③ ④ ⑥

CVSE3 — 20A—70—B 2H S—1
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

① 機種名	
記号	内容
CVE3	エアオペレート形
CVSE3	電磁弁搭載形

⑥ その他オプション	
記号	内容
無記号	オプションなし
S	サージキラー付
B	取付板付

② 接続口径	
記号	内容
10A	Rc3/8
15A	Rc1/2
20A	Rc3/4
25A	Rc1
32A	RC1 ¹ / ₄
40A	RC1 ¹ / ₂
50A	Rc2

⑦ 定格電圧	
記号	内容
1	AC100V 50/60Hz, 110V60Hz
2	AC200V 50/60Hz, 220V60Hz
3	DC24V

③ 作動圧力範囲	
記号	内容
35	0~3.5MPa
70	0~7.0MPa

④ ボディ・シール材質		
記号	ボディ	シール
O	鋳鉄	ニトリルゴム
B	鋳鉄	フッ素ゴム

⑤ コイル・オプション	
記号	内容
2G	DIN 端子箱付
2H	DIN 端子箱, ランプ付
3T	T 型端子箱付
3R	T 型端子箱, ランプ付

- 32A~50A は 3.5MPa 用のみとなります。
- 詳しくは専用カタログを参照ください。

10. 2 製品の仕様

形式	CVE3 -※-35 CVSE3 -※-35	CVE3 -※-70 CVSE3 -※-70
耐圧	7MPa	14MPa
流体圧力	0～3.5MPa	0～7MPa
流体温度	-10～60℃	
流体粘度	500 mm ² /s 以下	
周囲温度	-10～60℃	
周囲湿度	95%以下	
パイロットエア圧力	0.25～0.5MPa	
パイロットエア温度	-10～60℃	
取付姿勢	自在	
電圧変動 注)	定格電圧の-10%～+10%	
消費電力 注)	AC:1.9/1.5W(50/60Hz) DC:2W	

注) 電圧変動と消費電力は、CVSE3 形のみ適用。